

「資料」

「言葉の発達の様子と指導のポイント」

飯塚知敬（長崎大学教育学部・長崎大学教育学部附属幼稚園）
深堀由比・淵上由起・室野亜津子・福元みさお・寺田弥寿子
原 京子（以上6名 長崎大学教育学部附属幼稚園）

1 はじめに

今回発表する「言葉の発達の様子と指導のポイント」は、本園における年間の保育を5つの期間に分け、各期間について、「トラブル」、「言葉の獲得」、「思考」といった言葉の発達と深く関連する項目ごとに「言葉の発達の様子」をまとめ、それに教師の「指導のポイント」を加えたものである。紙面の都合上、今回は5歳児のみの発表とした。

ところで、一覧表の中に指導のポイントとして挙げられている指摘、例えば「トラブル」の項目の、自分の気持ちを「言葉で伝えることを促す」や、「思考」の項目の「自分たちで考え合えるように促す」といったことは一見、当たり前のことのように思われるかも知れない。しかし、これらを「事例記録」と合わせて読むと、これらの内容はより具体的に、より深く理解されるように思われる。

「事例記録」は、教師が、言葉の発達に関連する出来事を、子どもたちの生の声を活かせるようなより具体的な状況において再現することを目指して作成しているものであり、平成18年度本園公開研究会の『研究集録』の中に収められている。

例えば、トラブルに関連する事例記録として、「こんなことする…」(『平成18年度研究集録』)がある。男児と女児がそれぞれままごとをして遊んでいたが、男児が「女児が自分に悪さをすると、教師に訴えに来た。教師が女児にその理由を尋ねると、「自分が遊んでいたおもちゃを男児が倒したから」と答えた。トラブルを引き起こした過去の行為（おもちゃを倒した行為）は、時間の流れの中でたちまち消えて行き、現在はもはやない。そのため女児が自分の怒りの気持ちを男児に伝えるためには、この消えてしまってもはやない過去の行為を、自らの言葉の力によって再現することが必要となる。

また、思考に関連する事例記録として、例えば「しっぽの長かとはカエルじゃなか」(同上)がある。子どもが飼育していたオタマジャクシが変態して足が出た。しかし尻尾も残ったままである。これを見て、子どもたちは「カエル」なのか「オタマジャクシ」なのか、議論を始める。

このように事例記録と合わせて読むと、「気持ちを言葉で伝えること」や「自分たちで考え合わせる」というごく当たり前に思われていたことが、実は言葉の不思議な力によって初めて可能になっているということを再認識する。『子どものこ

とば』の著者である岡本夏木氏は、子どもが言葉を獲得する過程は「自由への戦い」の過程でもあると述べている。確かに、人間は言葉を獲得することで、自分の環境から自由になっていく。過去を再現する力を獲得して、時間の流れから自由になり、「カエル」の普遍的な意味を理解することで、「オタマジャクシ・カエル？」についても皆で考え合わせ、共通理解に至ることが可能となる。

本園では今後とも一覧表の改善を図って行くと同時に、事例記録を通して、子どもの言葉の発達をより具体的により深く理解し、これからの保育に活かしていきたいと考えている。ご指導をお願いしたい。(飯塚知敬)

2 本園の研究について

(1) 研究の経緯

長崎大学教育学部と附属校園では、平成13年度から共同研究として、幼稚園小学校、中学校、養護学校の一環教育を模索し始めた。研究は、附属校園の授業や保育を参観後、協議会の中で教育学部と附属校園の先生方が意見交換を重ね、教育学部の先生方に指導助言を頂きながら、共通理解を図ることからスタートした。

各附属校の児童・生徒が自ら課題追究を楽しんでいる姿を参観し、附属校園が求めている子ども像には、共通点があることを確信した。また、子どもたちが課題を持ち、自ら思考し、友達と高め合う姿には、幼稚園で育てている心情・意欲・態度の重要性を再認識した。子どもの学習活動を参観し特に強く感じたことは、学習には「言葉」が不可欠であるということ、幼稚園で子どもの聴く力や話す力を育てることと豊かな言葉を育てることの重要性である。コミュニケーションや理解、思考、表現、伝達の手段として、子どもが言葉を聴いたり話したりする力は、正に学ぶ力につながるのだと気付いたのである。

幼児の“言葉”に着目して3年目の研究になる。言葉が生活や学びに大きく関わっていることを十分認めながらも、“言葉”に焦点を絞った実態把握すら十分できないまま研究は遅々としている。

「子どもの言葉が聞こえる教師になりたい」

「言葉を通して子どもをより確実に理解したい」

という強い願いから本研究をスタートした。この願いは、3年間の研究を支える力となっている。

当初の2年間は研究方法と内容を模索するだけで思うような成果をなかなか挙げられなくて研究の方向について紆余曲折してきたが、子どもの言葉の事例研究を進めていくうちに、言葉の重要性についてますます強く認識するようになっていく。

本研究に関連する3年間の主な研究内容は次のとおりである。

年 度	研究テーマ	内 容
16年度	学ぶ力へつながる幼児の 知的好奇心を培うために － 幼 小 連 携 を めざして －	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉」に関しての実態を把握する。 ・「言葉」に関する知的好奇心や「言葉」のセンスを育む教師の援助について探る。 ・修了児の追跡調査を行い、小学校での成長の姿をとらえる。
17年度	「つながる」「広がる」 「深まる」言葉 －教育課程と指導計画の 見直しへ向けて－	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園指導要領と本園教育課程と指導計画の照合及び見直し ・事例研究から言葉の発達の道筋を探る。 ・言葉を育てる環境構成や教材の見直し
18年度	豊かな学びを育む － 言葉を通して －	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の言葉の発達をとらえる。 ・ 幼児の豊かな学びを育む環境構成や援助の在り方を探る。 ・ 幼児の豊かな言葉を育むための目安となる手引書を作成する。 ・ 保育研究方法を工夫する。

(2) 本年度テーマについて

乳児期と幼児期の6年間の中で、子どもたちは何と多くの事や人に出会い、数え切れない程の事を学んでいくのだろう。興味を持った事には、押さえられないエネルギーで何度も繰り返し納得がいくまで取り組む。そうせずにはいられない力が、生まれながらにして備わっているのである。子どもは“生命力”とも言えるその力によって、自ら学んでいく。その子自身が持つ力で発達していくのである。しかし、その成長は一様ではない。入園した子どもたちの育ちは一人一人違っている。素質、生育環境、経験、これまでかかわってきた人たちなどが異なるためであろう。このように多様な個性を持った幼児が、入園を境に、同じ環境の中で「人」や「物」とかかわっていくようになる。互いの生命力を発信しながら、交わったり、衝突したり、共感したり、深め合ったりしてそれぞれの世界を一気に広げていく。私たちは、身振りや表情なども含めて、子どもの思いが発信するものを“言葉”であるととらえた。その子の発する言葉は、その子の“学び”の有り様をそのまま映し出すと考える。

子どもたちは、言葉を通して自分の思いを表現する。それぞれの思いを受け止めて子どもの世界は一挙に広がっていく。互いに自己主張しながら、自分とは違う思いや考えがあることに気付き、心を揺らし、思考し、自己の世界を見つめ、広げ、深めていく。私共は、この過程を「豊かな学び」そのものであると捉えた。この過程の中で、言葉は、伝達の方法であったり、思考するときの言葉であったりしながら、学びを支えていると考え、今年度のテーマを「豊かな学びを育む一言を通して」と設定した。

子どもの学びは、教師の聴き方や言葉、それもたった一言で変容することがある。教師が子どもの言葉を温かく聴いて受容・共感することによって、子どもは安心して遊び込む。すると【遊びの満足感→教師への信頼感→その子らしさの発揮→豊かな学び】へと進化する。また、教師の一言が子どもの目を輝かせる事も多い。知的好奇心を子どもが「なぜだろう？」と問題解決に向けて関心を高めながら追究し、解決や発見の喜びを感じさせることになる場合もある。教師の聴き方や言葉は、子どもに対するものだけでなく、保護者や教師同士への言葉も、子どもに及ぼす影響は大きい。日々の園生活の中で交わされる膨大な量の言葉を再認識し、子どもの豊かな学びを育むために、言葉を通して援助の在り方を求めていきたいと考えた。子どもの言葉を心から聴き、その子が、今、何を学ぼうとしているのか、何を学んでいるのかを理解し、その子の育ちへの願いを込めて育ちに応じた適切な援助をすることで、その子の学びを更に豊かな学びへと導いていく保育を求めて、この研究に取り組んでいるのである。

そこで本年度は、子どもの言葉の発達 の道筋を明らかにし、その発達に応じた教師の援助の在り方を探り、指導の参考資料を作成することに着手した。日々の保育の中で、子どもの言葉や教師の言葉について悩むことがよくあるからである。教師にとって尽きない悩みの一つだと言える。言葉について悩んでいるときに、子どもの育ちに 応じた豊かな学びへと導くための援助を探る一つの手がかりになればと考えたからである。また、本研究を更に深めるため、保育研究においてVTRの活用を積極的に取り入れ、子どもの言葉を通して幼児理解を深め、教師の言葉に着目した実践力を高める方法の工夫を試みた。

(3) 言葉の発達の様子と指導のポイント

幼児の豊かな言葉を育むための指導の手引書作成をめざして言葉の発達の様子と指導のポイントをまとめた一覧表を、3歳児、4歳児、5歳児の各学年別に作成した。その中からここには、5歳児のみを掲載する。

5歳児1期(4月) 言葉の発達の様子と指導のポイント

	言葉の発達の様子	指導のポイント
1 トラブル ※	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーでルールを守らない友達に対し、仲良しの相手であれば、臆することなく不満を言葉で表現できる。しかし、普段かかわりの薄い相手であれば、つぶやくだけで、相手に伝えきれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを伝え合う場を作り、言葉で伝えるように促すなど助言する。
2 言葉のやりとりの状況 ※ ・会話の成立 ・教師に ・友達同士で ・異年齢の子どもに	<ul style="list-style-type: none"> ・T(担任)から注意を受けて、気持ちを尋ねられても新しい担任になかなか伝えることができない。 ・登園時に、保育室に入ると同時に「おはようございます。」と大きな声であいさつする子どもが多い。しかし担任以外に対しては、ほとんど反応を示さない。 ・新しい担任とかかわりたいという気持ちから担任に対して「見て」「聞いて」などの言葉が多い。 ・同じ遊びに取り組んでいる者同士で励ましの言葉を掛け合って、頑張ろうとする。 ・かかわりの深い友達の話をよく聞き、思いに応じようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係がまだ希薄なこの時期の注意の仕方に配慮し、その子どもの気持ちを引き出す言葉掛けをする。 ・Tがあいさつを交わした上で全体に気付け、友達同士で互いにあいさつするように促す。 ・丁寧に対応し、つながりを持つ。 ・Tも励ましの言葉を掛け、目的を持たせるような言葉掛けをする。 ・相手の気持ちに心を傾けようとする姿を認める。
・クラス全体の 話し合いの場面で	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会でお祝いの言葉を伝えるとき、友達のまねをするのではなく、自分の思いを自分の言葉で表そうとする。 ・人の話の内容を深く知ろうとして、分からないことを質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お祝いの言葉や質問内容をTが意図的に変え、いろいろな内容があることに気付かせる。また、その子どもなりに話の内容を工夫している場合には大いに認め、その子らしく話せるよう助言する。
3 言葉の獲得 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・「右向け右」「回れ右」「4列」「パレット」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長組進級の喜びが大きく、初めて聞く言葉や難しい言葉に対して敏感に反応する。そこで、生活に必要な言葉を子どもの興味関心に応じて徐々に教えていく。
4 思考 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・カエルを数えるときに、しっぽがなくなったものを数えるか、しっぽがあっても前足と後ろ足が出ていればよしとするか、それぞれの思いを出し合い、自分の考えに根拠を付けて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの意見を受け止めた上で、どちらの条件で数えるのか子どもたちで決められるように見守ったり、話し合いの中で提案したりする。
5 式への参加の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの代表として全園児の前で発表するときに、みんなの方を見ながら、気を付けの姿勢で堂々と自分なりの言葉で気持ちを話す。 ・約20分の始業式に真剣な表情と態度で参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の前での話し方(態度、姿勢、声の大きさなど)をその都度知らせる。 ・式における態度について事前指導する。また、年長児になった喜びや期待を受け止め、自信を持って式に参加できるようにする。
6 降園前の様子 ・子どもが楽しんでいること (子どもの胸から認識) ・テクニクを含む	<ul style="list-style-type: none"> ・なぞなぞ ・フルーツバスケット(約10分間) ・伝言ゲーム ・猛獣狩り 	
7 話したい聞きたいする時の指導 ・マナー等	<ul style="list-style-type: none"> ・人が話している時は割り込まないで、最後まで聞く。 ・話している人の方へ「おへそを向けて」目と耳と心で聞く。 ・降園前の保護者への話も静かに一緒に聞く。 ・話し合っている人々の間を通らない。 	
8 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ことわざの絵本の読み聞かせのとき、何人かが知っていることわざを発表する。 	

※…事例を取る項目 ◎…言葉以外の指導のポイント

5歳児1期(5月) 言葉の発達の様子と指導のポイント

	言葉の発達の様子	指導のポイント
1 トラブル ※	<ul style="list-style-type: none"> かかわりが薄い友達同士では、お互いの気持ちを十分に言葉で伝えられなかったり、相手の話に耳を傾けなかったりして、話し合いにならない。 	<ul style="list-style-type: none"> Tが両者の言い分を受け止め、お互いに伝え合わせるよう話し合いの場を作る。さらに、一緒に遊んでいる子どもも誘うようにする。
2 言葉のやいどいの状況 ※ ・会話の成立 ・教師に ・友達同士で ・異年齢の子どもに ・クラス全体の話し合いの場面で	<ul style="list-style-type: none"> 分からないことや困ったことがあるときに、すぐにTに尋ねに来るが、Tが助言することによって子どもたちで思いを出し合い、助け合うなどして問題を解決しようとする。 遊びや弁当など同じ場にいる友達と家族のことやお弁当の中身のことなどいろいろな会話を楽しむ。 5、6名のグループで話し合うとき、自分の気持ちに理由を付けて話す子どもが多くなる。まだ、自分の気持ちを表現することに一生懸命になり、話をまとめるのに時間がかかる。 自分の考えやイメージを抵抗なく言葉で表現できる子どもが10名程度おり、その子たちの発表から他の子どもたちもイメージを広げて、話し合いに参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士で解決できることである場合は、子どもに返す。 意図的にみんなで話し合いをする場を作る。みんなで考えを出し合って、決めたことが遊びや生活の中で生かされ、楽しさを味わう経験が持てるようにする。 Tは、子どもたちの話をまとめて、決定したことを投げかけ、確認する。
3 言葉の獲得 ※	<ul style="list-style-type: none"> 「飼育当番」 「温かい目」など知らない言葉の意味を積極的に知ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 知ろうとする意欲を認め、子どもが求めている答を獲得できるよう支える。 辞書など、言葉の意味を自分で調べることができるものを常備し、その使い方を必要に応じて知らせる。
4 思考 ※	<ul style="list-style-type: none"> 自分が知りたいことに対して、調べる方法を考える。 12匹いたカエルが減っている理由を4、5名で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで考え合えるように口を挟まず見守り、機会を捉えて考えが深まるように助言する。
5 式への参加の様子	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練で、約10分間立ったままTの話の聞こえようとする。 	
6 降園前の様子 ・子どもが楽しんでいること (子どもの声から記録) ・テクニクを含む	<ul style="list-style-type: none"> 歌の歌詞からイメージを広げ、自由に言葉で表現し合って楽しむ。 『アルプス一万尺』『おちゃらか』など二人組で遊ぶことを喜ぶ。 名前を逆から呼ぶことを楽しんで出席カードを配布する。 	
7 話したい聞きたいする時の指導 ・マナー等	<ul style="list-style-type: none"> 話している人としっかりと目を合わせる。(話者が自分を見ていないときも、話者の方を見る) 体操座りで足を両手で抱え、背筋を伸ばして姿勢良く話を聞くよう指導する。 降園時に保護者への担任の話を保護者と一緒に静かに聞く。話の意味が分からないときでも、話が終わるまで黙って聞く。 	
8 その他		

5歳児 Ⅱ期(6月・7月) 言葉の発達の様子と指導のポイント

	言葉の発達の様子	指導のポイント
1 トラブル ※	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージや考えを伝えようとするが、お互いに受け入れられなかったり、自分の理由をきちんと伝えられなかったりするために、お互いに理解できず、手が出ることもある。 自分たちで解決策を提案するが、表面的な解決で終始し互いに納得していないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉で気持ちを伝えようとすることを認めて、話し合う場を作ったり、当事者だけでなく周囲の子どもたちも一緒に考えさせたりする。 乱暴な行動はやってはいけないことであることと併せて気持ちを言葉で伝えることの大切さを指導する。 解決しようとする姿を認めつつ、子どもの本心を聞き出して周囲に伝えたり、みんなで出した解決策が適切であるか考えさせたりする。
2 言葉のやりとりの状況 ※ ・会話の成立 ・教師に ・友達同士で ・異年齢の子どもに	<ul style="list-style-type: none"> 「〇〇ちゃんのせい。」等と責められても「そんなに言わないでよ。」と言い返す事ができるようになる。第3者は冷静な立場で中立的なアドバイスができる。 Tの仲介が無くても自分たちだけで(5～6名程度)声を掛け合って、遊び始めることができる(ハンカチ落としや王様ゲームなど) 泥団子の作り方や折り紙の折り方を教えるとき、「まず」「それから」など順序を追って話す。 	<ul style="list-style-type: none"> Tが責められた子どもの気持ちに共感し相手の気持ちを考えた話し方に気付かせるようにする。 様子を見守る。 適切な表現を認める。
・クラス全体の話し合いの場面で	<ul style="list-style-type: none"> クラス全体で集まったとき、担任の話は聞くが、実習生の話は真剣に聞こうとせず、ふざけることがある。しかし、子どもたち同士で「静かにして。」などの注意ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> だれの話でも真剣に聞くことの大切さを指導する。
3 言葉の獲得 ※	<ul style="list-style-type: none"> サッカーをしながら、ゴールキック、スローイン、PKなど専門用語を使おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> Tは、適宜「〇〇って何?」と尋ね、子どもに説明を促すことで、周囲にいる子どもたちにも言葉の意味が分かるようにしていく。
4 思考 ※	<ul style="list-style-type: none"> ドンジャンケンやサッカーでチームの人数を揃えようと「こっちのチームが足りん。」「こっちに何人やればよか。」と言いながら、人数を揃えようと人を動かしたり、頭の中で考えて何人移動したらよいかを伝えたりしている。 船のスクリューを「こっちに回したら、前に行く。」「こっちに回したら、バックする。」とつぶやきながら実際にスクリューを前向きや後ろ向きに回している。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで考える場を作り、子どもから意見を出させるようにする。見守りながら意見を周囲に伝わるよう助言したり、補足したりする。 「こっち」を具体的に言葉で言い表せるように働きかけたり、Tが「こっち」が意味することを「船の前の方」などと言い換え、具体的に表現したりする。 思考を深めることができるように、遊びの内容の吟味、環境構成の工夫をし、遊びの空間や時間を十分確保する。
5 式への参加の様子		
6 降園前の様子 ・子どもが楽しんでいること (子どもの側から記録) ・テクニックを含む	<ul style="list-style-type: none"> 「〇の付くものは何だ」というゲームのときグループで話し合い、正解を考える事ができる。 『いやいやえん』の読み聞かせて約10分間集中して聞くことができる。 	
7 話したい聞きたいする時の指導 ・マナー等	<ul style="list-style-type: none"> 人の話を聞いているときには、思いついたことを話したくても、その人の話が終るまで待つように指導を徹底する。 	
8 その他		

5歳児 Ⅲ期(9月・10月) 言葉の発達の様子と指導のポイント

	言葉の発達の様子	指導のポイント
1 トラブル ※	<ul style="list-style-type: none"> 当事者同士の言っていることが一致せず、トラブルになる。第三者の子どもは「どちらが本当か見ていないけん、分からんもんねえ。」と判断せず、当事者に任せろが、そばで成り行きを見ている。 友達の取り合いになる。3人で遊びたいののに「○○ちゃんと、遊ばないで。」と言われ、それを受け入れるが、一緒に遊びたい。しかし、自分では伝えられず、母親や担任の力を借りて、自分の気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 両者の言い分を受け止め、子どもたち同士で話し合える場を確保する。必要に応じてそれぞれがどのようにすべきか考えさせるなどの助言をする。 3人とTで話をして、お互いの気持ちを自分で言うように促した。 戸外遊びや集団での遊びに誘い、多くの友達とかかわらせる。
2 言葉のやりとりの状況 ※ ・会話の成立 ・教師に ・友達同士で ・異年齢の子どもに	<ul style="list-style-type: none"> おととつとができない友達にやり方を教える。「ひもをピンで引っ張って」「まっすぐ見たら転ばないよ。」 おくんちごっここの傘鉾を持つ順番を決めようと提案。提案した子どもが、メンバー一人一人に尋ねて回る。決定したことをその都度メモしておく。 前日の約束や降園後の遊びなどを確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> Tも受け止め、言葉を足したり言い換えたりして、相手に伝わりやすくする。 子どものアイデアを認め、遊びの様子を見守りながら子どもたちに任せる。
・クラス全体の 話し合いの場面で	<ul style="list-style-type: none"> リレーの順番決め、17名のグループで話し合う「丸くなって。」「○○君が1番ね。」などと公正な意見を言いながら進めていく子どもが3～4名。その他の子どもは意見を受け入れて話し合いに参加する。約5分間話し合って決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 大切な話し合いであることを知らせて、皆で真剣に取り組むよう促し、自分たちで話し合う場を持たせる。 Tも加わって、子どもが決めた内容を尊重しつつ、一人一人が力を発揮できるようにTが助言をする。
3 言葉の獲得 ※	<ul style="list-style-type: none"> 運動会に関する取り組みの中で「障害走」「アンカー」「開・閉会式」などを覚え、使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> Tが進んで使用し、耳になじませる。必要に応じて意味を知らせるようにする。
4 思考 ※	<ul style="list-style-type: none"> 祖父母へのプレゼント作りで、ひもの通し方を見本と異なるやり方で通す。2～3日して、友達を通して見る姿を見つめ、間違っていることに気付くやり直す。「何か僕、違うみたい。」 	<ul style="list-style-type: none"> Tがやり方を教えてしまうのではなく、子ども自身で気付くように言葉をかける。また、子どもが自分自身で考えられるよう時間を確保し、子どもが気付いたことを大いに認める。
5 式への参加の様子	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みあけの始業式で、時間が長くてもしっかりと参加しようとする。(集中し、姿勢がよい。) 運動会の開会式では、約10分間気を付けの姿勢で、話を聞いたり歌を歌ったりする。閉会式でも疲れを表に出すことなく約10分間しっかりと話を聞いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全園児で集まる機会を利用して、年少者の手本となるように促したり励ましたりする。 戸外で立つ経験、話を聞く経験を取り入れていく。
6 降園前の様子 ・子どもが楽しんでいること (子どもの側から記録) ・テクニックを含む	<ul style="list-style-type: none"> 伝言ゲームで、「今日は風が強いなあ」を「今日はカチカチ山」と伝えたグループがあり、その違いをみんなでおもしろがる。 「○の付くものは何だ」で、いろいろな言葉を考え出しクラス全体では1～2分で30語近くの言葉を思い付く。 自作のなぞなぞ、お話作り 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで楽しめる言葉遊びを紹介する。 伝言ゲームでは、正しく伝えることを認めるとともに、言葉のわずかな違いが全く異なる意味になる事などを子どもと共に楽しむ。 Tも率先してなぞなぞやお話を創作して紹介する。
7 話したい聞きたいする時の指導 ・マナー等	<ul style="list-style-type: none"> 運動会の開閉会式やその他の式で、前に立つ人が礼をしたとき、一緒に礼をすることを知らせる。 	
8 その他		

5歳児 IV期(11月・12月)言葉の発達の様子と指導のポイント

	言葉の発達の様子	指導のポイント
1 トラブル ※	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルの様子を見ながら間に入り、「OOちゃん、泣いてるよ。謝りに行こうよ。」などと促す。 ・トラブルが起こってもTにすぐ知らせることが少なくなり、自分たちで何とか解決しようとする。ただ、「こういう事があった」というトラブルの事後報告は増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの様子を見守り、自分たちで解決しようとした姿を認める。必要に応じて助言したり仲介したりする。 ・トラブルの事後報告を受容し自分たちで解決しようと考え合ったことを認めた上で、当事者同士のかかわり方や内面を探り、必要に応じてフォローする。
2 言葉のやいどの状況 ※ ・会話の成立・教師に・友達同士で・異年齢の子どもに ・クラス全体の話し合いの場面で	<ul style="list-style-type: none"> ・家で書いてきた手紙を友達同士でやり取りすることが増える。(特に女兒に多い) 手紙には、「今度一緒に遊ぼうね。」「大好き。」などと友達に伝えたい自分の気持ちを簡単に書いている。 ・クラス全員での遊びや生き物の飼育についてなどの話し合いに集中して参加し、自分の考えを発表する子どもが増える。(約50%) ・ハンカチ落としのルールについて、遊びの中で思っていることや考えていることを言う。遊びをより楽しくするための提案をみんなで話し合い、共通理解を深めて遊びが進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機会をとらえて、手紙の内容を確認し、適切でないときTが感じた場合は、個別またはクラス全体に対し指導を行い、保護者にも指導内容を伝える。 ・積極的に話し合いに参加しない子の思いを引き出しながら、話し合いの一員として参加することを楽しませる。 ・その場で子どもが決めたことをTが確認したり、分かりにくいところを質問したりして決定事項が全体に行き渡るようにする。
3 言葉の獲得 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・「木工」「釘抜き」「版画」「パレン」 ・シルエット劇場で出てきた「琵琶」について知ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの紹介をしながら、使い慣れない言葉を紹介していく。 ・国語辞典を用意しておき、子どもが疑問を持ったとき、一緒に調べる。
4 思考 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児全員による話し合いで、ホワイトボードに書いてある内容を指すときに「上から5番目の・・・」「縄跳びの下の・・・」など書いてある位置が分かるように具体的に言うことができる。 ・二人組を作るときに、欠席人数を考え「一人余るはずだよ。」と指摘したり、二十日大根の収穫時に「あと8本でみんな持って帰られる。」と考えを述べたりする。 ・影絵遊びのとき「前に言ったら小さく映る。」などと気付きを確かめ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分の考えを、相手に分かりやすく伝えようとする姿を認める。「分かりやすいねえ。」「そんな言い方があるんだね。」 ・「なぜそう思うの?」「なるほどね。」など、子どもがその考えに及んだ過程を話させ周囲に伝えたり、自分なりに試行錯誤して考えた事を認めたりする。
5 式への参加の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学への関心が高くなり、姿勢や返事などを意識する子どもが増える。 ・2学期終業式では、姿勢を保ちながら約30分間座って先生や友達の話の聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意欲を認め、周りの子どもにも気持ちを広がるように促す。
6 降園前の様子 ・子どもが楽しんでいること(子どもの脚から記録) ・テクニックを含む	<ul style="list-style-type: none"> ・お話作りを楽しむ。自分で考えた場面をみんなの前で発表し、次に別の友達がその話を続ける。4～5名の話が続く。知っている物語の内容を変えながらオリジナルの話を作る。 ・ハンカチ落としやフルーツバスケットなどのゲームを、自分たちで進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して聞く雰囲気を作り、発表できたことや話を作ることができた事を認める。 ・自主的な活動を見守り、誘い合いやルールの確認をしている姿を認める。
7 話し合いの時の指導 ・マナー等	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間でも集中できるようにする。→1時間弱、話し合いの時間を設ける。 ・立った姿勢で話が聞けるようにする。→全園児で集まる会や式するとき、立ったまま約10分の話の聞く機会を設ける。 	
8 その他		

5歳児 V期(1月・2月・3月) 言葉の発達の様子と指導のポイント

	言葉の発達の様子	指導のポイント
1 トラブル ※	<ul style="list-style-type: none"> 共同作業のときに、自分のイメージを形に表すことに集中し、お互いの思いを伝え合っていない。しかし、それぞれの言い分を言い合ううちに相手の気持ちを理解し、自分たちで折り合いを付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ目的に向かってはいるが、イメージがずれているだけであるので、高め合いを期待して見守る。必要に応じて落ち着かせたり相互の思いをつないだりなどの助言を行う。
2 言葉のやりとりの状況 ※ ・会話の成立 ・教師に ・友達同士で ・異年齢の子どもに ・クラス全体の話し合いの場面で	<ul style="list-style-type: none"> 友達が落ち込んだり泣いたりしているところに励ましや慰めの言葉をかけて、立ち直らせようとする。「大丈夫よ。」「できるよ。」「もう1回してごらん。」など。 トランプやこま回しの方法などを具体的に言葉で教えようとする。 大人数に向かって、自分の考えを言うことができる。進んで発言しない子どもも指名すると何とか話そうとする。 約60名の話し合いのとき、人の話を聞いて自分の考えを話すことができるようになる。 約60名で、お話作りを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達が困っている理由を察しながら接している子どもを認め、支えてもらった子どもにも「良かったね。」などと声をかけ、相手を思った言動を表現するよさを伝える。 Tは事前に話の方向性を予想しておき、子どもの意見を中心にして進行や話の整理を行う。 子どもの思いに共感しながら聞く姿勢の大切さを知らせ、話し合いを進める。 話し合いの中で話し合いの条件(例:子ども会話し合いのときに「協力」「ステージ上で見えるもの」「楽しいもの」)を繰り返し、考えるとき、思考する際のポイントを明確に伝えながら話を進める。 人と同じようなことを繰り返し発表する子どもがいるので、ストーリーを理解しやすいようにホワイトボードなどに書き込んだり、話をまとめたりする。
3 言葉の獲得 ※	<ul style="list-style-type: none"> 「賛成」「協力」「反省」「時は金なり」「角箱」「升」「合奏」「合唱」「背景」「卒園」など。 	<ul style="list-style-type: none"> 使い慣れない言葉が出てきたときに、Tがその意味を説明するのではなく、子どもに尋ね、子どもなりに説明させる。
4 思考 ※	<ul style="list-style-type: none"> トランプ遊びの「ばばぬき」「7並べ」「神経衰弱」などで「同じ数を合わせる」「数の順序を考えて並べる」などを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもなりに考えている姿を見守りながら、子どもと同じレベルで遊ぶ。
5 式への参加の様子	<ul style="list-style-type: none"> 修了証書授与式の中で、ステージから大勢に向かって将来の夢を大きな声で発表する。 1時間程度、静かにいすに座っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 約10日前から、一人一人の力に応じて声の大きさ、内容、態度などを丁寧に指導していく。頑張っている姿を大いに認め自信を持たせるようにする。
6 降園前の様子 ・子どもが楽しんでいること(子どもの側から記録) ・テクニックを含む	<ul style="list-style-type: none"> 『何でもバスケット』で、条件をいろいろ考えて言えるようになった。 約10分の読み聞かせを喜び、集中して聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで楽しんだゲームを大いに取り入れ、遊びの進め方や内容について意見を出し合う姿を大いに認め、見守る。 子どもが興味を持つような本を選ぶ。(物語の内容や話の量など)
7 話したい聞きたいする時の指導 ・マナー等	<ul style="list-style-type: none"> クラス全体が集まったとき、子どもを姓で呼ぶようにし、自由に遊んでいる時間との場の違いに気付かせる。 降園時に、いすに座る機会を多く設け、着席したときの姿勢を教えたり、長時間着席して話を聞く経験を持たせたりする。 挙手の仕方や呼名されたらときに返事がよくできる子どもを認め、周囲に紹介して模範的な行動に気付かせる。 	
8 その他	<ul style="list-style-type: none"> 相手が傷つくようなこと(身体的特徴、よだれなど)を冷やかすことがある。その都度その場をとらえて指導する。 	

3 おわりに

この研究を通して、私共が努力するようになった主な事は次のとおりである。

- ・ 子どもを受容し、認めること。
- ・ 子どもの言葉を聴くこと。
- ・ 子どもの言葉から、子どもの気持ちを理解しようとする事。
- ・ 子どもの姿（言葉、表情、周囲の様子その他）を記録し、考察すること。
- ・ 記録をもとに教師同士で幼児理解、環境構成、指導について検討すること。
- ・ 子どもの言葉及びその事をもとに考えたことを、保護者に伝えること。
- ・ 保護者の言葉を聴き、語り合うこと。
- ・ 子どもの疑問・関心を引き出し、問題解決への心情・意欲を高めること。
- ・ TPOに応じた言葉を話すこと。
- ・ 教育要領や本園教育課程及び指導計画を読み込むこと。
- ・ 修了までの育ちを見通した保育計画を立て、計画的に実践すること。
- ・ 同学年で、子どもの育ちを語り合い、適切な指導を工夫して実践すること。

以上のほかにも、教師が経験から培った幼児観を客観的に見直すなど各自が子どもの育ちのために積極的に研修を重ねているところである。

今回提示した「言葉の発達の様子と指導のポイント」は、平成17年度に着手したものであるが、まだまだ検討は不十分であり、平成19年度の事例記録と検討を継続することにより、一覧表の改善を図りたいと考えている。

一覧表作成の経緯には、新任教師の役に立つ資料をまとめたいという思いがあった。多くの教師が子どもの言葉を聴くことの大切さと教師の言葉の力を高めることの必要性を感じながらも、実際にはよく分からないまま繁忙な職務に流される中で、計画的な言葉の指導について実態に即した研修を行うことが難しいからである。新任教師と敢えて表現したのは、本園には長崎県の教育委員会との人事交流によって公立小学校教諭が着任しているのだが、幼稚園教諭としては新任であり、保育についての悩みを抱える姿が顕著に見られるからである。環境を通して総合的な指導を行う幼稚園教育では、時間割や教科書が無い生活丸ごとの保育の中で、教師は、子どもの言葉にならない言葉からつぶやき、更には話し合いまで高まる子どもの言葉を受け止め、適時適切に応じなくてはならない。しかし、子どもの言葉を聴くことすらままならない日々が続き、いつ、どのように言葉掛けをしたらよいのかが分からないと悩んでいる内に保育は停滞しがちで、時が過ぎることがよくある。本園の教員採用事情に限らず、幼稚園では採用の回転が速い所が多く、教職経験が豊富な教師が育ちにくい土壤があることも現実である。

子どもの豊かな学びを育むための言葉の指導について、保育のヒントになれる参考資料を発行することを目標に、改善を重ねていきたい。一覧表だけを見直すと、分かったような気がした内容が第三者には非常に分かりにくいものである事に気付いた。事例記録が無くても、保育向上のための言葉を通した指導のポイントが分かりやすい資料作成へ向けて、形式や内容について御指導をお願いしたい。